

小平市年表



開通したところの西武多摩湖線（一橋学園付近、昭和3年）



西武多摩湖線青梅街道駅前（昭和32年ごろ）



市制施行祝賀パレード（昭和37年）



八ヶ岳山荘開設（昭和44年）

年号（西暦）	事 項
明暦 2 年(1656)	小川九郎兵衛、小川の開拓を開始。
享保 9 年(1724)	小川新田、大沼田新田、鈴木新田、野中新田の開発開始。
享保 11 年(1726)	野中新田の採草地を東村山廻り田村から土地を購入し、廻り田新田が成立。
明治 5 年(1872)	現在の小平全域、神奈川県に編入。
〃 6 年(1873)	協同学舎(現・一小)、文畚 ^{ぶんよ} 学舎 ^{ひつぎよく} ・櫃玉 ^{しんよ} 学舎・新念学舎(以上合併して(現・二小)開校。
〃 13 年(1880)	桜蔭学校(現・三小)開校。
〃 22 年(1889)	小平村誕生。
〃 26 年(1893)	三多摩が東京府に編入。
〃 27 年(1894)	川越鉄道(現・西武国分寺線)開通、小川駅設置。
大正 5 年(1916)	電話開通。
〃 6 年(1917)	送電開始。
昭和 2 年(1927)	西武鉄道(現・西武新宿線)開通。
〃 3 年(1928)	多摩湖鉄道(現・西武多摩湖線)開通。
〃 4 年(1929)	昭和病院開業。
〃 6 年(1931)	女子英学塾(現・津田塾大学)小平に移転。
〃 8 年(1933)	東京商科大学予科(現・一橋大学小平国際キャンパス)小平に移転。
〃 18 年(1943)	東京都制施行。
〃 19 年(1944)	小平町制施行。
〃 22 年(1947)	小平中学校(現・一中)開校。
〃 23 年(1948)	北多摩中央消防署小平出張所開所。 紅陵高校(現・拓大一高)開校。
〃 29 年(1954)	小平町(市)歌制定。
〃 31 年(1956)	四小開校。
〃 32 年(1957)	小平開拓 300 年。五小、二中開校。白梅学園短期大学開校。
〃 34 年(1959)	小平町誌完成。小平町(市)章制定。町営水道給水開始。
〃 35 年(1960)	六小開校。
〃 36 年(1961)	三中開校。武蔵野美術大学開校。
〃 37 年(1962)	七小開校。小平市制施行。
〃 38 年(1963)	大沼保育園開園。都立小平高校、私立錦城高校開校。小平郵便局開局。
〃 39 年(1964)	東京都北多摩北部事務所(現・東京都小平合同庁舎)開所。市庁舎新築移転(現・中央公民館)。
〃 40 年(1965)	八小開校。小平電報電話局開局。中央公民館開館(現・仲町公民館)。私立白梅学園高校開校。
〃 41 年(1966)	九小、四中、十小開校。喜平保育園開園。 小平保健所開所(現・多摩小平保健所)。跡地は健康福祉事務センターとして利用。北多摩中央消防署小川出張所開所。小平・村山・大和衛生組合ごみ焼却場完成。
〃 42 年(1967)	十一小、私立創価高校開校。上水公園開園。
〃 43 年(1968)	津田保育園開園。十二小、十三小開校。萩山公園(グラウンド)開園。市の木、市の花制定。
〃 44 年(1969)	鈴木保育園開園。十四小、十五小開校。八ヶ岳山荘開設。小平警察署開署。八小校内で古代の住居跡発見(八小遺跡)。

年号（西暦）	事 項
昭和 45 年(1970)	小平市長期総合計画基本構想議決。鈴木ばやし、市の無形民俗文化財に指定。都立小平保育園を市に移管、小川西保育園と改称。八小遺跡に竪穴式住居を復元。小川保育園開園、小川公民館開館。
// 46 年(1971)	五中、六中開校。あかしあ通り開通。北多摩中央消防署花小金井出張所開所。萩山公園にプール完成。
// 47 年(1972)	福祉会館開館。仲町保育園開園。市制施行 10 周年記念で市民憲章、名誉市民条例制定。名誉市民に平櫛田中氏を推挙。
// 48 年(1973)	小川東小開校。武蔵野線開通、新小平駅設置。緑化条例制定。花小金井小開校。
// 49 年(1974)	つつじ公園、あじさい公園開園。花小金井保育園開園、花小金井北公民館開館。鈴木遺跡発見。
// 50 年(1975)	小平市図書館(現・仲町図書館)、花小金井武道館開館。老人のための明るいまち推進事業実施都市に指定。上水中開校。
// 51 年(1976)	鈴木小開校。上宿保育園開園、上宿公民館開館。老人憲章制定。第 1 回小平市民まつり開催。
// 52 年(1977)	学園東小開校。学園西町に住居表示制度を実施。市制施行 15 周年。都立小平西高校開校。
// 53 年(1978)	北海道小平町と姉妹都市締結。花小金井南中開校。上水南保育園開園、上水南公民館開館。都立小平児童相談所開所。小平消防署開所。
// 54 年 (1979)	東部市民センター（東部出張所、花小金井図書館）開所。福祉会館前市民広場完成。障害者福祉都市に指定。名誉市民平櫛田中氏逝去。姉妹都市小平町との少年少女交歓交流開始。
// 55 年(1980)	上宿小開校。西部市民センター（西部出張所、小川西町図書館、小川西町公民館）開所。
// 56 年(1981)	花小金井南公民館、喜平図書館開館。鈴木遺跡資料館開館。
// 57 年(1982)	中央公園野球場、競技場、テニスコート利用開始。嘉悦女子短期大学(現・嘉悦大学)開校。学校給食センター開所。上宿図書館開館。小川駅に身体障がい者専用エレベーター設置。子どもキャンプ場開所。市制施行20周年。名誉市民に小川睦郎氏を推挙。玉川上水遊歩道、新東京百景に選定。
// 58 年(1983)	市庁舎新築移転。鈴木地域センター開所。都立小平南高校開校。
// 59 年(1984)	大沼地域センター開所。中央公民館、仲町公民館開館。野火止用水に清流復活。平櫛田中館（現・平櫛田中彫刻美術館）開館。姉妹都市小平町とふれあいの森林づくりに着手。
// 60 年(1985)	東部公園開園。学園駅前公園完成。自転車等放置防止条例施行。上水新町地域センター開所。市民総合体育館開館。障害者福祉センター開所。中央図書館、仲町図書館開館。東部公園プール開場。小平市新長期総合計画基本構想議決。



福祉会館開館（昭和 47 年）



あじさい公園開園（昭和 49 年）



小平市図書館開館（昭和 50 年）



新庁舎完成（昭和 58 年）



平櫛田中館（現・平櫛田中彫刻美術館）開館（昭和 59 年）



健康センター開所（平成 2 年）



小平ふるさと村開園（平成 5 年）



ふれあい下水道館（公共下水道管理センター）開館（平成 7 年）

年号（西暦）	事 項
昭和 61 年(1986)	中島地域センター、天神地域センター開所。中央公園整備完了。玉川上水に清流復活。名誉市民に大島宇一氏を推挙。栄町土地区画整理事業スタート。第 1 回小平市芸術文化奨励賞を表彰。
// 62 年(1987)	多摩北部都市広域行政圏協議会（小平、東村山、田無・保谷（現・西東京市）、清瀬、東久留米の 6 市で構成）を設立。小平・村山・大和衛生組合の新焼却炉（4・5 号炉）完成。東部市民センター市民広場開園。上水本町地域センター開所。文化女子大学（現・文化学園大学）小平校舎開校。津田公民館、津田図書館開館。市制施行 25 周年。小川西町地域センター開所。
// 63 年(1988)	「こだいら秀景 25」決まる。九道の辻公園開園。学園東町地域センター開所。都市計画道路（青梅街道～野火止用水）開通。
平成元年(1989)	花小金井北地域センター、小川東町地域センター開所。健康センター開所。
// 2 年(1990)	御幸地域センター開所。全市公共下水道汚水整備完成。
// 3 年(1991)	市制施行 30 周年。市の鳥制定。名誉市民小川睦郎氏逝去。
// 4 年(1992)	喜平地域センター開所。小平ふるさと村開園。名誉市民大島宇一氏逝去。市民文化会館（ルネこだいら）開館。
// 5 年(1993)	平櫛田中館（現・平櫛田中彫刻美術館）展示館開館。リサイクルセンター開所。小川東第二地域センター開所。公文書公開制度開始。小川西町土地区画整理事業開始。
// 6 年(1994)	学園西町地域センター開所。小川ホーム在宅介護支援センター開設。ほのぼの館（高齢者館）開館。ふれあい下水道館（公共下水道管理センター）開館。小川西町中宿地域センター開所。
// 7 年(1995)	狭山市と災害時の相互応援協定締結。第 1 回江藤俊哉ヴァイオリンコンクール開催。小川公民館移転・開館。
// 8 年(1996)	リブレこだいら（粗大ごみ再生展示等施設）開所。
// 9 年(1997)	美園地域センター開所。鈴木遺跡資料館移転・開館。小平町と姉妹都市提携 20 周年。花小金井駅南口開設。
// 10 年(1998)	あおぞら福祉センター開所。証明書自動交付機設置。
// 11 年(1999)	小川西町土地区画整理事業完成。花小金井駅南口駅前広場完成。天神テニスコート開所。
// 12 年(2000)	大沼公民館、大沼図書館開館。高齢者交流室開館。市役所庁舎立体駐車場完成。
// 13 年(2001)	FC 東京練習場、小平グラウンドへ移転。花小金井南地域センター・児童館開館。高齢者デサービスセンター開設。さわやか館（高齢者館）開館。健康福祉事務センター開設。小平町と姉妹都市災害時相互応援に関する協定締結。市制施行 40 周年。花小金井駅北口都市基盤整備事業開始。
// 14 年(2002)	小川西グラウンド利用開始。
// 15 年(2003)	

年号（西暦）	事 項
平成 16 年(2004)	コミュニティバス試行運行開始。 小平元気村おがわ東（青少年センター・男女共同参画センターなど複合施設）開設。子ども家庭支援センター開設。鈴木公民館開館。小平グリーンロード、「美しい日本の歩きたくなる道 500 選」入選。
// 17 年(2005)	電子申請サービス開始（東京電子自治体共同運営サービス）。小平市非核平和都市宣言。ファミリー・サポート・センター事業開始。 こだいら 21 世紀構想 ―小平市第三次長期総合計画基本構想―議決。
// 18 年(2006)	新小金井街道の青梅街道から東京街道間が開通。花小金井駅北口駅前広場完成。東部市民センター新築移転。第1回灯りまつり開催。
// 19 年(2007)	小川町二丁目地域センター・児童館開館。上水本町ビオトープ公園開園。こもれびの足湯開設。小平グリーンロード親水公園開園。障がい者地域自立生活支援センター開設。花小金井南遺跡発見。
// 20 年(2008)	小川緑地・虹ヶ丘みどり公園開園。小平町と姉妹都市提携 30 周年。
// 21 年(2009)	小平市男女共同参画推進条例制定。コミュニティタクシー大沼ルート試行運行開始。日本一大きな丸ポストが完成。小平市自治基本条例施行。
// 22 年(2010)	小平市民等提案型まちづくり条例施行。鷹の台駅バリアフリー化の完成。小平市民活動支援センター開設。
// 23 年(2011)	きつねっぱら公園、せきれい公園開園。被災地への職員派遣の実施。コミュニティタクシー栄町ルート試行運行開始。地域宣伝隊コダレンジャーの誕生。
// 24 年(2012)	市制施行 50 周年。鈴木遺跡が東京都指定有形文化財(史跡)に指定。基幹型地域包括支援センター開設。
// 25 年(2013)	小川町一丁目地域センター・児童館開館。国分寺市と図書館の相互利用開始。
// 26 年(2014)	国分寺市と体育施設の相互利用開始。コミュニティタクシー鈴木町ルート試行運行開始。
// 27 年(2015)	小平市非核平和都市宣言 10 周年。小平グリーンロード「新日本歩く道紀行 100 選」水辺の道に認定。なかまちテラス（小平市立仲町公民館・仲町図書館）開館。
// 28 年(2016)	こだいら観光まちづくり協会設立。
// 29 年(2017)	新五日市街道線の小川町一丁目区間が開通。
// 30 年(2018)	小川駅西口地区第一種市街地再開発事業の都市計画を決定。
令和元年(2019)	小平駅南口に「東京ドロンパ」と「ぶるべー」のモニュメントを設置。リサイクルセンター新築移転。立川市と図書館の相互利用開始。
// 2 年(2020)	小平市第四次長期総合計画基本構想議決。
// 3 年(2021)	鈴木遺跡が国史跡に指定。
// 4 年(2022)	市制施行 60 周年。小平市ゼロカーボンシティ宣言。男女共同参画宣言都市こだいら。
// 5 年(2023)	小金井市、東大和市と図書館の相互利用開始。給食センターの更新。
// 6 年(2024)	合気公園開園。 一橋学園駅前タクシー乗り場開設。



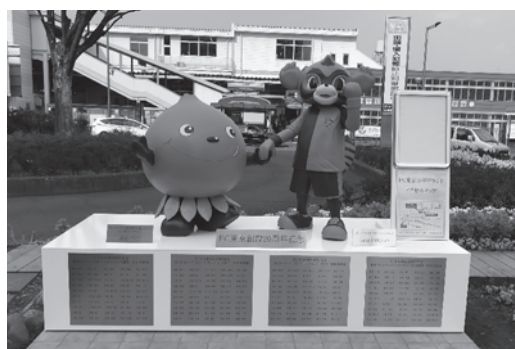
花小金井南地域センター・児童館開館（平成 14 年）



花小金井駅北口駅前広場完成（平成 18 年）



日本一大きな丸ポスト完成（平成 21 年）



小平駅南口に「東京ドロンパ」と「ぶるべー」のモニュメントを設置（令和元年）

史跡や伝説

◆野火止用水

玉川上水開通後、川越城主の松平伊豆守信綱が、玉川上水の水を自己の領地内に引き入れる許可を受けて開削しました。別名を伊豆殿堀と言います。

◆ 鎌倉街道

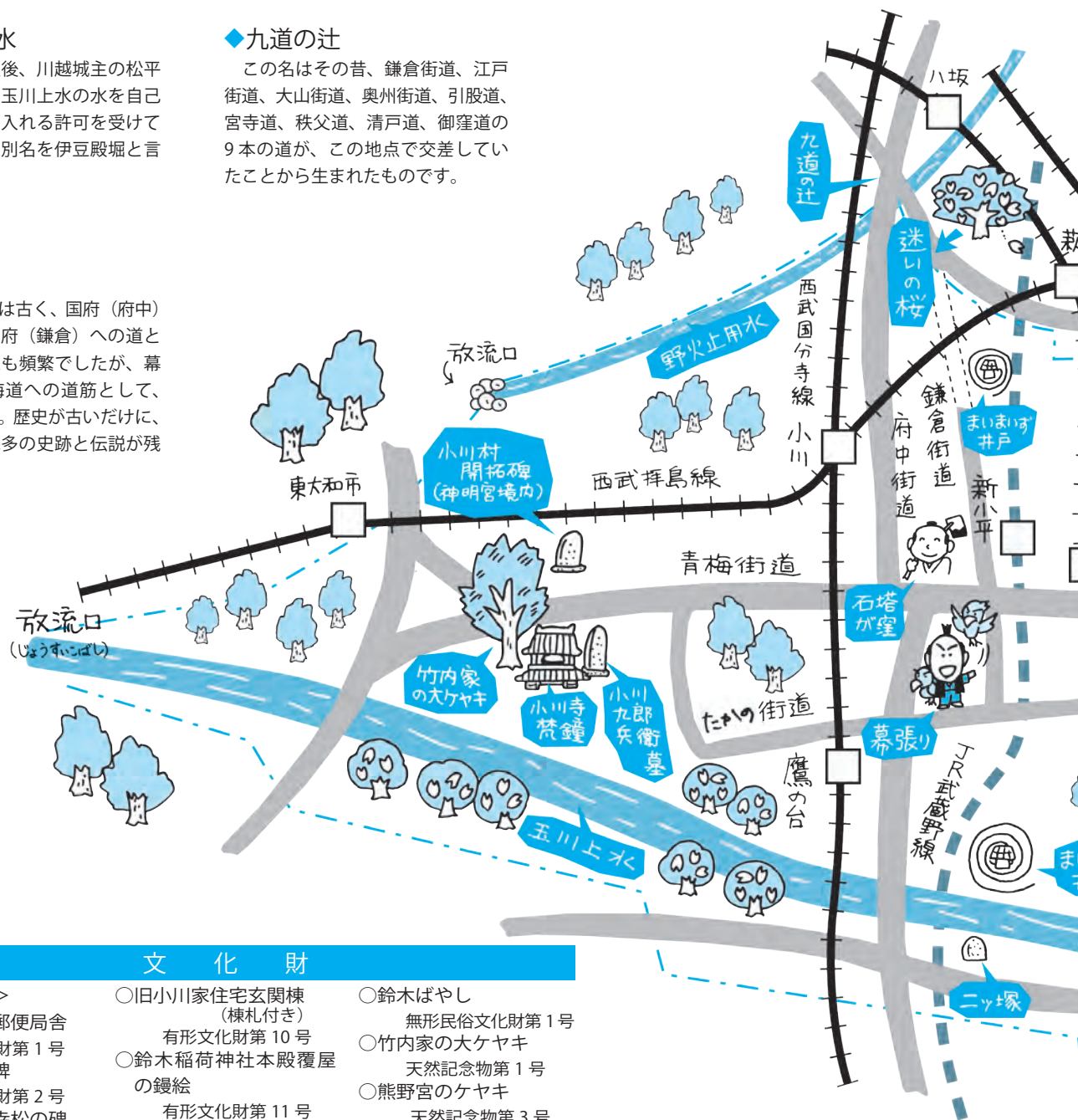
この道の歴史は古く、国府（府中）への道、また幕府（鎌倉）への道として人馬の往来も頻繁でしたが、幕府滅亡後は東海道への道筋として、利用されました。歴史が古いだけに、その沿道には幾多の史跡と伝説が残されています。

◆九道の辻

この名はその昔、鎌倉街道、江戸街道、大山街道、奥州街道、引股道、宮寺道、秩父道、清戸道、御窪道の9本の道が、この地点で交差していたことから生まれたものです。

◆迷いの桜

九道の辻の鎌倉街道の一角にあった桜です。新田義貞が鎌倉へ攻め上る途中ここにさしかかり、いずれが鎌倉への道であるか迷い、他の者も迷うだろうと、ここに道しるべとして桜を植えたものと伝えられています。



文化財

<小平市指定>

- ＜小平市指定＞
- 旧小平小川郵便局舎
有形文化財第1号
 - 小金井桜樹碑
有形文化財第2号
 - 行幸松と行幸松の碑
有形文化財第3号
 - 小川寺梵鐘
有形文化財第4号
 - 當麻家文書
有形文化財第5号
 - 小川村開拓碑
有形文化財第6号
 - 海岸寺山門
有形文化財第7号
 - 旧神山家住宅主屋
有形文化財第8号
 - 旧鈴木家住宅穀櫃
有形文化財第9号

- 旧小川家住宅玄閑棟
(棟札付き)
有形文化財第 10 号
- 鈴木稻荷神社本殿覆屋
の鰻絵
有形文化財第 11 号
- 鈴木稻荷神社境内の金
刀比羅社の彫刻装飾
有形文化財第 12 号
- 小平市八小遺跡
史跡第 1 号
- 小川九郎兵衛墓
史跡第 3 号
- 武蔵野乃一本榎跡
史跡第 4 号
- 高橋定右衛門墓
史跡第 5 号
- 延命寺庚申塔
有形民俗文化財第 1 号

- 鈴木ばやし
無形民俗文化財第1号
- 竹内家の大ケヤキ
天然記念物第1号
- 熊野宮のケヤキ
天然記念物第3号
- 鈴木稻荷神社のケヤキ
天然記念物第4号
- <東京都指定>
- 小川家文書
有形文化財
- <国指定>
- 小金井(サクラ)
名勝
- 玉川上水
史跡
- 鈴木遺跡
史跡

◆幕張りとたかの街道

徳川御三家の一つである尾張大納言が鷹狩りの際、この地（幕張り）で上覧されたと言われています。たかの街道は尾張侯のお成りの道、鷹狩りの道中道としてつくられたものと推測されています。

◆二ツ塚

旅人の道のりを知らせた、旧鎌倉街道13塚の一つであると伝えられています。この二ツ塚もいつしかその姿が消え、今は地名のみとなっています。

【ふりかえる郷土の歴史】

小平は武蔵野の真っただ中に開かれた新田村です。

小平の7つの新田村の先駆けをなした小川村の開発が、小川九郎兵衛により明暦2年(1656年)から始まりましたが、それ以前はまったくの荒野でした。現在でも昔の武蔵野の面影を残し、その美しさが見られますが、長い間、人の住めなかった荒野をみごとに開墾し、耕し、現在の小平を築き上げた幾世代にもわたる先人の努力と忍耐を忘れることはできません。青梅街道をはじめ、玉川上水などは小平の歴史から離れることはできないものになっています。

史跡や人々の言い伝えに触れ、郷土こだいらの歴史を振り返ってみましょう。

◆石塔が窪

小川九郎兵衛が最初に開拓のクワをおろしたのがこの地点で、小川村の開発はここから始まったと伝えられています。

◆青梅街道

小平の開発より古く、慶長年間に開通されました。この街道は江戸城修築などのため、多量に使われる石灰などを成木(青梅)などから運んだ、江戸幕府御用のための街道として、重要な役目を果たしました。

◆一本榎

広い原野の中にそびえ立つ1本の大樹は「武蔵野乃一本榎」と呼ばれ、往来する旅人の目印として親しまれてきました。しかし、この榎も枯死し、子木といわれた木もありましたが倒木し、現在は樹齢100年ぐらいと思われる孫木が、この鎮守熊野宮に元気に茂っています。

◆小金井桜(国指定史跡)

玉川上水を清く、美しさを保つため、8代将軍吉宗の時代に川崎平右衛門が桜の植栽を担当し、小金井橋を中心に延々6kmの兩岸に吉野や常陸の桜を植えました。天保年間に將軍世子(のちの13代將軍家定)の観桜があつて以来、上水の桜並木は名実ともに関東随一の桜の名所となりました。

◆玉川上水(国指定史跡)

江戸幕府になって江戸の人口が増え、水が不足するようになりました。4代將軍家綱のとき玉川兄弟に上水路開設を命じ、玉川兄弟は多摩川からの取入口を羽村に決め、大工事を完成させ、江戸に水を引きました。この玉川上水の恩恵は江戸市民ばかりでなく、小平の開発にも大いに役立ちました。

◆まいまいず井戸

鎌倉街道沿いにあったと言われ、往時、旅人が、疲れをいやす水を求めたとき、このすり鉢形の周りをぐるぐる回って地底に下り、湧き出る井戸水でのどを潤し、また、旅を続けたと言われています。遺跡としては確認されていません。



小平の文化財 (主なもの)

小平市の文化財は、グリーンロード沿いに多く存在しています。天気のいい日に歴史散歩をしてみてもいいのではないでしょうか。

小金井(サクラ)

国指定名勝

大正13年12月9日指定

学園西町1丁目商大橋付近から
武蔵野市境橋付近まで
玉川上水兩岸

玉川上水の兩岸、およそ6kmに及ぶ桜並木は、関東随一の桜の名所として、江戸時代からその名を知られていました。他に類例のないヤマザクラの集植地であり、多くの天然変種に富んでいることから、植物学的にも貴重な存在です。

現在では、桜の老化や交通量の増加による環境悪化などのため、かつての景観とは様変わりしていますが、歴史的、学術的に貴重な小金井桜の保存、復活に向けて、調査、検討が行われています。



玉川上水

国指定史跡

平成15年8月27日指定

羽村市から渋谷区

玉川上水は、江戸市中への給水を目的として、多摩川中流の羽村取水口から江戸まで約43キロメートル間を掘削した素堀の開渠水路です。

工事は幕府の命令により玉川庄右衛門・清右衛門が請け負い、承応2年(1653年)に着工し、翌年に竣工したとされています。

羽村取水口から四谷大木戸までの水路敷のうち開渠部分の約30.4キロメートルが、貴重な土木遺産として国の史跡に指定されています。



鈴木遺跡

国指定史跡

令和3年3月26日指定

所在地

鈴木町1丁目・回田町(一部)

鈴木遺跡は、昭和49年6月に、現在の鈴木小学校用地で確認されました。局部磨製石器や礫群など数多くの遺物・遺構が見つかり、約3万8千年から1万6千年前の後期旧石器時代の人々の暮らしを知ることで、わが国を代表する遺跡として広く内外に知られています。

後期旧石器時代の大規模遺跡で、拠点遺跡であるとして国の史跡に指定されています。



小川家文書

東京都指定有形文化財

昭和39年11月12日指定

中央図書館所蔵

小川家文書は小川町一丁目の小川家に伝来した古文書で、武蔵野新田の開発に着手した明暦2年(1656年)以降、大正年間に至るまでの民政の移り変わりを伝えるものです。

多摩地域に存する村落史料としては最も整ったものの一つで、きわめて重要な資料として昭和39年11月、東京都指定有形文化財に指定されました。



鈴木ばやし

小平市無形民俗文化財

昭和45年5月25日指定

市内に残る唯一の郷土芸能として、江戸時代の弘化4年(1847年)から鈴木町地区に伝わるものです。この「はやし」は、江戸里神楽のはやしの一部を取り入れ、はやしにのって、シン、おかめ踊りなどを舞うものです。小平の青年教育の先覚者であった深谷定右衛門が、当時の若者たちに健全な娯楽を与えるために創り出し、代々伝承されてきました。



はっしょう 小平市八小遺跡

小平市史跡

昭和56年1月1日指定

所在地

鈴木町1丁目355番地

小平第八小学校校庭

昭和44年1月、小平第八小学校の校庭から発見された、竪穴式住居址です。この住居址からは今のセイロにあたる甌(こしき)、甕(かめ)などの土器や砥石の破片も発見されました。

これらの遺物から、遺跡は奈良時代(710～784年)に属する建物の跡と思われます。

住居址は昭和45年に上屋の復元が試みられましたが、老朽化したため平成17年に埋め戻され、約40cm盛られた覆土の上に石列で住居址の位置が示されています。



旧小平小川郵便局舎

小平市有形文化財

昭和58年3月31日指定

所在地

天神町3丁目9番1号

小平ふるさと村

局舎は、明治41年(1908年)建築の和風建築で、わが国に現存する郵便局舎の中でも、古いものの一つです。当初は集配業務を行い、また昭和初期からは電話交換業務も行っていました。和風平屋建、赤茶色の屋根、窓口は鉄格子、屋根の3か所に干マークがあります。明治末期から大正期にかけての郵便局の様子を知ることができる貴重な建物です。



おうじゅひ 小金井桜樹碑

小平市有形文化財

昭和61年3月31日指定

所在地

御幸町318番地

海岸寺境内

この碑は、文化7年(1810年)に建立されたもので、名勝小金井桜の由来を記したものです。この碑文は、いわゆる、金石文の基本ともいえるもので、小金井桜の由来と当時の武蔵野新田開発世話役であった川崎平右衛門の功績を後世に伝えるために建碑したことの文章が約700字で記されています。この碑は、当時、金橋桜花と称せられた小金井堤の桜花を称賛した唯一の歴史的資料として貴重なものです。



ぎょうこうまつ 行幸松と行幸松の碑

小平市有形文化財

昭和61年3月31日指定

所在地

御幸町345番地

玉川上水沿い

行幸松は、明治16年(1883年)4月23日に明治天皇が小金井堤に観桜に出かけてこられたことの名譽を、後世に伝えようと、地元鈴木新田の有志が御座所跡に植えたものです。植樹して19年後、松が見事に成長した明治35年に、当時の海岸寺住職玄格が地元の有志と図り、この松植樹の由来を記した記念碑を松の傍らに建立。碑文は、天皇行幸のときに神奈川県の大書記官として参列した磯貝静蔵氏の手によるものです。いずれも観桜の跡地を示す歴史資料として貴重なものです。



こうしんとう 延命寺庚申塔

小平市有形民俗文化財

昭和61年3月31日指定

所在地

天神町3丁目5番1号

延命寺山門前

この庚申塔は嘉永3年(1850年)に建立されたもので、塔には青面金剛の立像が小松石の唐破風屋根付角柱石に浮き彫りされています。また、下部の三猿は烏帽子をかぶり御幣を持った三番叟の姿で、青面金剛が笑っているなど多摩地域でも珍しいものです。庚申塔は、庚申信仰(60日目に巡り来る庚申の夜に講中の人が集まって祭りをを行う)の歴史的遺物であり、当時の民間信仰の歴史資料として貴重なものです。



しょうせんじぼんしょう 小川寺梵鐘

小平市有形文化財

昭和62年3月31日指定

所在地

小川町1丁目733番地

小川寺境内

この梵鐘は、貞享3年(1686年)に鑄造され、小川寺檀家57戸により寄進されたものです。梵鐘の寄進された貞享のころは青梅街道の全盛期で、檀家の農民は馬継場の荷役稼働による収入で生活にも潤いができて、こぞって梵鐘の寄進にこたえたものと思われます。



おがわくるべえぼ 小川九郎兵衛墓

小平市史跡

昭和62年3月31日指定

所在地

小川町1丁目733番地
小川寺

小川九郎兵衛安次は、元和8年（1622年）に多摩郡岸村（現・武蔵村山市）に生まれました。玉川上水と野火止用水の開通後、小川村の開拓に着手し、さらに馬継場の開設も行いました。寛文9年（1669年）に、婿養子の市郎兵衛に家督を譲って岸村の旧宅に帰り、その年12月に48歳の生涯を閉じました。



竹内家の大ケヤキ

小平市天然記念物

昭和62年3月31日指定

所在地

小川町1丁目583番地
竹内家宅地内

このケヤキは、市内最大の巨木で、高さ35m以上、目通りの幹の周囲6.5m、枝張りの面積400㎡もあります。この大ケヤキは、竹内家が、この地に移り住んだ寛文年間（1661～1673年）に、春の赤風と秋の台風に備えて植樹された数多い木の中の1本で、樹齢は約350年です。



たいまけ 當麻家文書

小平市有形文化財

昭和63年3月31日指定

中央図書館所蔵

江戸幕府の直轄領（天領）である武州多摩郡大沼田新田の名主當麻弥左衛門家の文書です。地方の支配関係、鷹場関係の文書が多く、特に「年貢割付状」、「年貢皆済目録」などがほとんど残されていて、新田開発の歴史を知るうえでも貴重な史料です。



小川村開拓碑

小平市有形文化財

昭和63年3月31日指定

所在地

小川町1丁目2573番地
神明宮境内

大正7年（1918年）、小川村開拓の祖、安次（小川九郎兵衛）から10世の孫、彌次郎が安次の250年祭を催した際、他の村民とともに小川町1丁目の神明宮の境内に建立した碑です。安次の功を伝えとともに、小川村開拓の由来が記されています。



むさしののいっぽんえのき 武蔵野乃一本榎跡

小平市史跡

平成元年3月1日指定

所在地

仲町362番地
熊野宮境内

初代の榎は、その丈、群を抜いて高く、このそびえ立つ大樹を「武蔵野乃一本榎」と呼び、鎌倉街道を往来する旅人の目印として親しまれていたと伝えられています。この榎は寛保年間（1741～1744年）に枯木となり、また、2代目の子木も大正13年9月の台風で倒れ、現在は3代目の孫木で、樹齢100年くらいと思われます。



かいがんじさんもん 海岸寺山門

小平市有形文化財

平成元年3月1日指定

所在地

御幸町318番地
海岸寺境内

この山門の建築様式は、鎌倉時代の代表的な、いわゆる鎌倉式を取り入れ、ケヤキ造りで、カヤぶき屋根の四脚門です。鈴木新田の長谷部家に仮住まいしていた渡り大工の作といわれ、本柱うえの杵組みと破風流れの屋根構えおよびカヤぶき屋根は珍しい貴重な建物です。

令和6年3月に、屋根の解体修理が行われました。



こうやま おもや 旧神山家住宅主屋

小平市有形文化財
平成4年3月27日指定

所在地
天神町3丁目9番1号
小平ふるさと村

この建物は江戸時代後期と推定される時期に、小金井から廻り田新田に移築されたものです。その際、間取りがヒロマ型から喰違い四ツ間型に変更されました。したがって、江戸時代中期における武蔵野新田農家の特徴をとどめ、また後期にかけての移り変わりをよく示している建物です。



こくびつ 旧鈴木家住宅穀櫃

小平市有形文化財
平成4年3月27日指定

所在地
天神町3丁目9番1号
小平ふるさと村

この穀櫃は、当初花小金井の秋山家にあったものを大沼町の鈴木家が譲り受けたものです。大地主として財力のあった秋山家が、明治維新の動乱期に備えて建てたものと考えられ、江戸時代後期に、近郊各村に造られた稗倉の形式を伝える貴重なものです。



げんかんとう 旧小川家住宅玄関棟 (棟札付き)

小平市有形文化財
平成5年3月1日指定

所在地
天神町3丁目9番1号
小平ふるさと村

この建物は、旧小川村および小川新田村の開発事業の中心的役割を果たしてきた、名主の小川家に代々継承されてきたものです。

創建時の棟札によって、この建物が文化2年(1805年)3月13日着工、同年5月25日に完成したことが明らかになりました。この玄関は主屋とは別棟として建てられ、主屋と廊下で接続していました。一般の名主宅に見られる形式とは異なり、小川家の格式の高さと江戸時代における当家の実力を示しています。



おおいや こてえ 鈴木稻荷神社本殿 覆屋の鰻絵

小平市有形文化財
平成26年3月24日指定
所在地
鈴木町1丁目510番地
鈴木稻荷神社境内

本殿は、白壁の土蔵づくりの覆屋に覆われています。明治初期に田無村の左官職、新倉安左衛門によって漆喰(しっくい)で立体的に表現した鰻絵(こてえ)で両面に象、南北の二面には狐の親子が描かれています。象はライオンのような長い尻尾やたてがみ、鉤爪を持つなど、象の実物を知らず伝統的な絵画の手法に従って描いたと思われる点特徴的です。



ことひらしゃ 鈴木稻荷神社境内の 金刀比羅社の彫刻装飾

小平市有形文化財
平成26年3月24日指定

所在地
鈴木町1丁目510番地
鈴木稻荷神社境内

金刀比羅社は、柱から梁に至るまでの全面に龍などをモチーフにした彫刻が見られ、龍の口の中に朱が見られるなど、かつては全体に色彩が施されていたと思われますが、長年屋外にあったため、色彩はほとんど失われています。西南北の三面には中国の故事の情景が描かれています。西南北の彫刻の裏面に墨書があり、天保4年(1833年)に彫刻師小川義長が彫ったものと思われます。



たかはしだえもんぼ 高橋定右衛門墓

小平市史跡
平成28年3月17日指定

所在地
天神町8丁目26番地
円成院墓地内

高橋定右衛門は野中新田と右衛門組の名主でしたが、明治3年(1870)に御門訴事件のリーダーの一人として、現在の小平市域にあった新田村の一部が所属していた品川県により逮捕・投獄され、厳しい尋問を受けて獄中で亡くなりました。

この御門訴事件は、武蔵野新田12か村の農民が、品川県庁の門前で社会制度(凶作に備えた備蓄制度)に対して訴願を行って弾圧された事件です。近世の封建社会から近代社会への移行期に起きた民衆運動の一つとして知られ、その後、明治10年代におこる自由民権運動の先駆けとなる社会的運動として評価されています。



自治基本条例を制定する背景・趣旨

地方分権が推進される中で、市において、地域の課題を地域で考える「自己決定」と「自己責任」に基づいた市政運営が求められています。また、少子高齢・人口減少社会の到来や市民ニーズの多様化などにより社会環境は大きく変化し、これまでの市政のあり方では、さまざまな課題に対応することが難しくなっています。

こうした時代背景を踏まえて、市では、市民をはじめ、多様な主体が担い手となり、地域の課題に取り組んでいく市政の仕組みが必要と考え、平成18年度から自治に関する基本的な原理やルールを定めた自治基本条例づくりに取り組んできました。

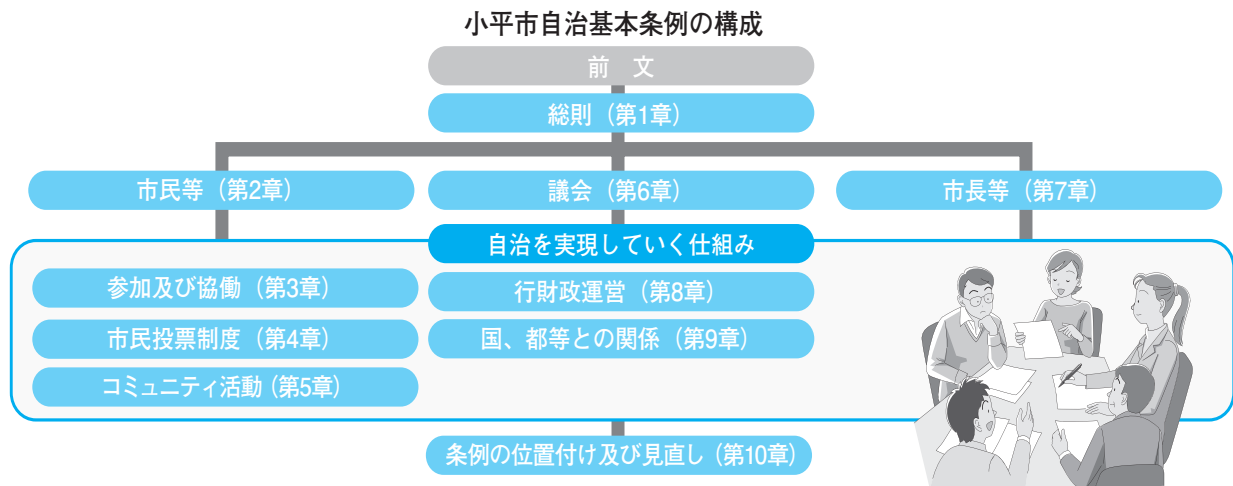
小平市自治基本条例は、平成21年12月の市議会定例会で可決され、同月22日から施行されました。この条例には、市における自治の基本理念や、自治の担い手の権利、責務、さらには市政運営の仕組みなどが定められています。この

条例を市民・市議会・執行機関が共有し、活用することで、よりいっそうの市民自治のまちづくりを進めていきます。

条例の内容

条例は、前文ならびに11の章、39の条文で構成されています。市の自治に関して、基本となる考え方、自治の担い手である市民・市議会・執行機関の役割、参加・協働のあり方、コミュニティ活動、市民投票制度などについて定めています。

この条例の目的は、情報共有を進め、市政運営に参加する機会を拡充し、コミュニティ活動を促進していくことなどにより、多くの市民が今まで以上に多様な方法で地域のさまざまな課題解決にかかわり、みずからの経験や能力を発揮し、生かすことができる市民自治のまちづくりを進めていくことです。



小平市自治基本条例の全文は、市政資料コーナー、小平市ホームページでご覧になれます。

多摩六都科学館

プラネタリウムと観察・実験・工作で「Do サイエンス!」

多摩六都科学館は小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の5市が共同で設置した、世界最大級(直径27.5m)のプラネタリウムドーム「サイエンスエッグ」と5つの展示室、科学学習室のある参加体験型の科学館です。

プラネタリウムは1億4000万個を超える星を投影することができます。満天の星を見ながら、スタッフが生解説で季節の星空を紹介します。5つの展示室では、約100点の展示物で科学の面白さを体験できます。

また、ミュージアムショップ、カフェ、庭に面した開放感あふれる休憩室もあります。子どもも大人も、それぞれの楽しみ方ができる多摩六都科学館で一日ゆっくりとお過ごしください。

上映スケジュール・最新情報はホームページ等でご確認ください。

<休館日>月曜日(祝日の場合は開館し翌日)、祝日の翌日、年末年始、その他臨時休館あり

<交通案内>花小金井駅北口より徒歩18分

または、西東京市コミュニティバス「はなバス」

第4北ルート田無駅行多摩六都科学館下車(乗車時間約8分)

多摩六都科学館

〒188-0014

西東京市芝久保町5-10-64

☎042(469)6100

